



いくせい通信

Smile up!

～詐欺と性被害・子どもが悪いことした時に～

2024.10.21

No. 7

酒田市青少年指導センター
酒田市中央西町2-59
Tel 0234-24-2901

10月4日(金)に開催された定例会には、大変多くの推進員のみなさんが参加してくださいました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

10月定例会のご紹介

青少年育成推進員連絡協議会、通称「青少協」では、2か月に1度、年6回の会議を行っています。この会では青少年育成に係る研修を行ったり、活動に関する協議を行ったりしています。

この10月定例会の中で、県からいただいた表彰状の伝達をいたしました。正式な名称は、長いのですが「**山形県青少年補導連絡協議会長期功労指導員表彰**」です。今回は3名の方が受賞しました。おめでとうございます。

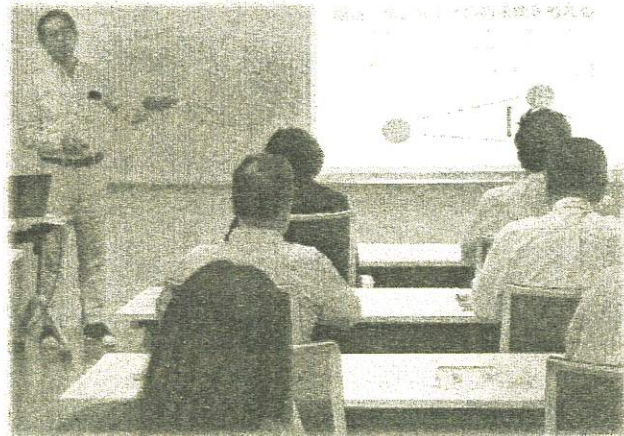
また、協議に先立ち、会議のウォーミングアップとして、ボードゲーム「**ボブジテン**」をやってみました。今回は蘆田会長が代表して出題した問題に参加者が答えました。ボードゲームはただ楽しむためのゲームではなく、コミュニケーションツールなどとして使えるということを実感してもらうために行っています。青少年の育成活動として取り入れてもらうために体験をしていただきました。次回は、進行役の方から出題していただきますのでよろしく願いいたします。



古田直子さん(左端)、小野和人さん(右端)と、昨年度末で退任された澁谷弘明さん(表彰済み)の3人です

今後の子どもまつりに向けて

今年度より、子どもまつりのブースの一つを酒田南高校生徒会にお願いしています。この育成活動の流れをさらに推進すべく、来年度に向けて、育成部が主体となって南高に赴き、共に活動をしながら子どもまつりを盛り上げていきたいと思ひます。育成部のみなさん、よろしくお願ひします。



土田将昭さん(富士見)が、学区の活動を紹介してくださいました。

詐欺と性被害

少し前なら「性被害」というと“ジャニーズ事務所”を思い浮かべる方も多いと思います。性被害といっても「児童ポルノ」に関わるものから「不同意性交等」までさまざまあります。

これまでの統計をみるとSNSに起因する事犯はここ数年微減の傾向にありますが、その数は依然高止まりのまま推移していて、令和5年では1665人(18歳未満)が被害にあったようです。しかし、その数は氷山の一角で、表に出ない、出せなかった数はその20倍とも100倍とも言われています。さらに、不同意わいせつ、不同意性交等、略取誘拐など、いわゆる「重要犯罪」は、10年前の平成26年の38件から、令和5年はなんと225件と6倍増と急増しているのです。

ちなみに、このおたよりは「Smile up!」ですが、発行当初の2020年に、推進員からネーミングを募集して付けたものです。旧ジャニーズ事務所が新しい名前を発表するかなり前に決定していたものです。(笑)

都会の話ではない！

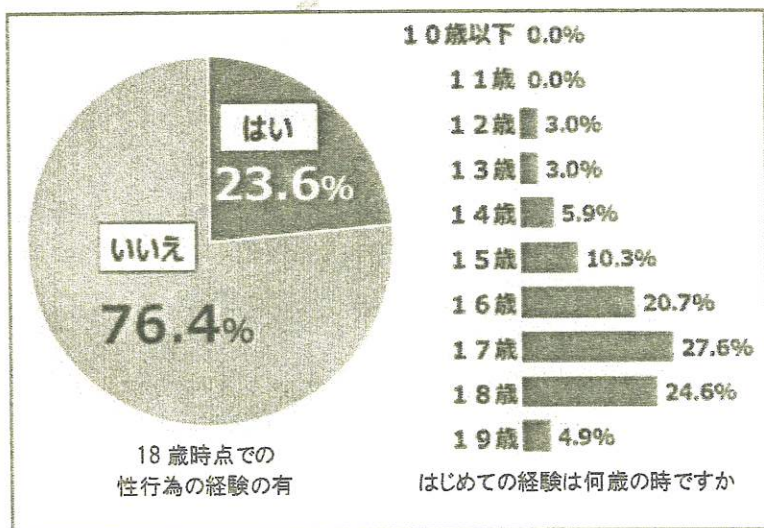
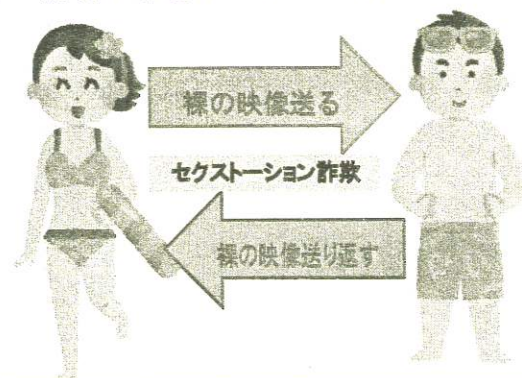
こういうことを話題にすると“それは都会の話。いなか町酒田ではあまりない。”などと考えている方がまだいらっしゃるようですが、**実際に県内でも庄内でもそういう事案が起きています。**

最近の事例をお伝えしますと、以前「セクストーション詐欺」(R5年度No.10)をご紹介しましたが、自慰行為を見せ合い、その動画が流出した事件や、SNSを通じて知り合った女性が性行為をさせるからと喜んでお金を送ったら、このことを恐喝され金を要求された事件などが起きているのです。

今はネットで性的な映像を簡単に手に入れてしまえる世の中です。性に関する情報も、子どもたちはWebサイトやSNSから得ているのです。

今の子どもたちの性行為体験は、右上のデータのようになっているようです。この年齢が早いかどうかはわかりませんが、これでも20年くらい前と比べると経験者は減ってきていて、低年齢化に歯止めがかかってきているようです。性に関する正しい知識が広がってきたからとも言えるのかもしれませんが。

しかし思春期の子どもたちです。「性」に興味がないわけではないでしょう。そして子どもたちはかんたんにネットと繋がり、性に関する情報を餌にした犯罪者とネット上で毎日のように対峙しています。**そのリスクを知識として知っていて避けることができたり、欲望や感**



日本財団 18歳意識調査を実施 第39回 テーマ:「性行為」より引用

情を抑え自分をコントロールできたりする子どもであればいいのですが、中にはネット上の悪の手に徐々にからめとられ、事例のように餌食となってしまう子どもも少なからずいるのです。

青少年指導センターで行っているSNS安全指導では、できる限り最新の情報で、また学校で抱えている問題や実態をお聞きしながら資料をつくるようにしています。先生方や保護者のみなさん、あるいは青少年指導に関わっている関係団体のみなさんからの情報や要望等もお聞かせいただけるとさらに良い資料での授業を子どもたちに提供できると思います。どうかお気軽にお寄せください。



情報等の提供・お問い合わせ
酒田市青少年指導センター

〒998-0034 酒田中央西町 2-59

TEL 0234-24-2901

E seisyounen@sakata.ed.jp

Fax 0234-23-8093

子どもが悪いことした時・トラブルった時に

「子供の将来のため？ 受験に影響が出るから？ んなこたあ筋が違うんだよ。あのガキどもは親や学校が庇ってくれるのを見越してやがる。…(中略)…ガキの間違いを今まで全部うやむやにしてごまかしてきたんだろうよ。だからあんな小賢しいブランドガキができあがる。ガキが間違うのは当たり前だ、ガキが間違ったら親はガキがションベンちびるほどガツリ怒って、ああ、こりゃあ悪いことだと教えてやらなきゃ駄目なんだよ」

重雄の怒りは清一も同感できるものだったが、そうなる^{きよかず}と今度は逆の理屈が立ち上がる。賤と称して子供を虐待するような親が存在するのも事実だ。どちらも同じように正しくない、しかしうやむやなごまかしを子供への愛情とすり替えて世間体を取り繕うほうが見栄えがする。

みなさんは「三匹のおっさん」(有川浩著 文春文庫)をお読みになったことがありますか。映画にもなった小説なのでご存じの方もいらっしゃると思います。上に登場する「重雄」と「清一」は三匹のおっさんのうちの二人で、ある日、清一の孫の卒業した中学で飼育されていたカモが何者かに危害を加えられるという事件が起きます。結局、犯人はその学校の生徒だったのですが、その生徒たちの将来を考えて、事件はうやむやになってしまうのです。ネタバレさせてしまいそうで申し訳ありません

が、動物虐待をしていた中学生の親たちが学校に呼び出されると、親たちは一様に自分の子どもを庇い、**校長が「事が事ですし、警察に通報して捕縛が妥当だと」と話す**と激怒し、**学校側に問題が無かったのか**と言い始めるのです。

この小説の一場面を切り取りましたが、これと似たような話って、時々ありますよね。最近、保護者から学校へのクレームが大変多くなっているそうです。正当なものなら仕方



ないのですが、中には先の小説みたいにカスハラと変わりない、まさしく“親としての自分の非”“わが子の非”を棚に上げて、学校や担任など、誰か別の人のせいにする苦情(ニクレーム、カスハラ)があるようです。本当は、子どもたちが悪いことしたりトラブルったりした時こそ、ある意味立ち直りや成長のチャンスのはずです。失敗を叱って終わりにしたり、相手を責めたりするのではなく、わが子の自立・自律への絶好の機会と捉えられたらどんなに素敵なことでしょう。

なのに、最近、どうも“学校(担任)のせいにして”親としての非を回避したり、面倒な躰を避けたりしているように思えてなりません。そんなことしていたら「あー、ヤバイ時は誰かのせいにすればいいんだ」と、子どもは親の背中から学んでしまうのにはです。

ごそんじですか？「少年補導員」

今回も街頭指導お願いしている酒田市内の関係団体をご紹介します。今回は「少年補導員」です。

少年補導員とは、警察本部長から委嘱を受け、地域における青少年健全育成活動に従事する少年警察ボランティアのみなさんです。酒田地区少年補導員連絡会は、関係機関・団体との連携を保ち、地区内における各種非行防止対策並びに被害少年及び要保護少年の発見保護活動を効果的に実施することで、酒田地区の青少年の健全育成に資することを目的に、次のような活動をしています。



- ・ 不良行為少年の補導活動等についての情報交換及び対策の研究
- ・ 少年の善導と健全育成活動に必要と認められる事業
- ・ 少年に有害な環境浄化活動及び対策の研究
- ・ 被害少年及び要保護少年の保護活動保護観察になった人への助言や指導

上の写真は、会員が参加する青少年健全育成活動として行っている「農業体験」の時のものです。

令和4年から、酒田警察署、少年サポートセンター庄内、大学生ボランティアとともに、支援を必要としている少年を対象とした農業体験を行っています。この畑は、同事業の趣旨に賛同していただいた当連絡会の会員から借りているもので、「どりいも農園」(ドリームとさつまいもを合体させた造語)の名称で親しまれています。畑には、農業体験に参加した少年と大学生ボランティアが協力して作成したカラフルな「どりいも農園」の看板が設置されており、参加者を出迎えてくれます。5月のさつまいもの植栽から始まり、草むしり、夏のつる返しを経て、10月のさつまいも収穫、11月の試食会までの約半年間、多くの大人と子供が関わり合い、楽しく活動しています。

カンガエル算数(New)

先月のお題(1年生の問題です)

じどうしゃが4だいとまっています。3だいくると、ぜんぶでなんだいに なりますか。

◀何が「モンダイ」か? ▶

答えは $4+3=7$ 7台

カンタンですね！ 私たち大人にとっては…

しかし、数の概念や問題の意味をつかめていない1年生の子どもたちがそれを理解するのは「カンタン」ではありません。具体的な場面を思い浮かべたり、実際に積み木などに置き換えて考えたりという作業の行程をいったん通らなければならないので



です。「ぜんぶで」だから足すんだよということではないのです。

3+4なのか、あるいは4+3なのかを話し合ったり、「ふえる(追加)」なのか「ガッチャン(合体)」なのかを考え合ったりする中で、徐々に数や式への理解が深まります。先ほども示したように“「ぜんぶで」「あわせて」はたし算、「のこりは」「ちがいは」はひき算と覚えなさい”と、まるで公式を暗記させるかのように指導してはダメなのです。

算数の勉強は、算数の問題を解くためだけにあるものではありません。問題(課題、現状)をよく分析し、仲間とその解決の方法を探り、より良い解決策を導いていく、まさに社会で言う「マネジメント」の体験学習でもあるのです。大げさかもしれませんが「人生」の勉強です。

今月のお題(今年の小6全国学力テストより)

ゆうまさんは、折り紙を72枚まっています。

ゆうまさんが持っている折り紙は、こはるさんが持っている折り紙より28枚少ないです。こはるさんは何枚持っていますか？